

令和4年度 城東中学校 総括評価表

		自己評価		学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
<p>学習指導</p> <p>情報を正しく読み取り、自分の思いや考えを豊かに表現する力を育む。</p>	<p>①主体的・対話的で深く学び合う生徒の育成を目指した授業改善を実施する。</p> <p>②学習習慣を確立し、自らの課題に主体的に取り組む生徒の育成を図る。</p> <p>③タブレット端末の有効な活用実践を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 各教科の授業内容がおおむね理解できている生徒が85%以上である。</p> <p>② 1日平均1時間以上家庭学習に取り組む生徒が80%以上である。学習規律を守る生徒が95%以上である。</p> <p>③生徒1人1台持っているタブレット端末を授業や家庭学習で有効に活用する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 授業の内容が理解できている生徒が76%程度と目標値を下回った。教員は工夫や改善をとおして「わかる授業」づくりを続けたが、まだまだ生徒の授業理解につなげていない。</p> <p>② 1日平均1時間家庭学習に取り組む生徒が73%と目標値を下回った。家庭学習での宿題や課題が十分にできていないと思われる。一方、学習規律を守る生徒は91%で目標値を少々下回ったが、学習規律を守ろうとする生徒の意識は高く、今の本校の良さである。</p> <p>③小学校からの積み重ねもあり、基本操作は全員がマスターできている。中学校でもドリル学習や課題学習・グループ学習など日々活用の幅は広がっている。また、家庭学習においても各教科の課題をタブレットを通して提出するなど有効な活用ができています。</p>	<p>総合評定</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(評定)</p> <p>(所見)</p> <p>学習規律を守り落ち着いて授業に取り組む生徒が多く、また、教師のタブレット活用等の授業改善への取組が粘り強い指導が功を奏し、コロナ禍でも生徒の学習意欲や習慣が高い水準で維持できていると考えられる。さらに向上・改善させていきたい。</p>	<p>・聞く、内容を理解する、話す、書く等による言語表現もますます重要である。 ・自分の意見を自分の言葉で相手に伝えるコミュニケーション能力は今後大切になってくる。また、結果に至るまでの過程の説明が重要視されると思われる。そこで、グループディスカッション等で表現力を培ってほしい。 ・タブレット端末について、生徒も先生方も使い慣れてきている様子が見える。今後も、授業内容を補充する等、有効活用して欲しい。 ・メディアリテラシーと同様に、情報モラル教育も重要と思われる。 ・現実的には難しいがタブレットで今日受けた授業をもう1回見られる等タブレットを有効活用できればいいと思う。 ・タブレットの使い方は生徒自身慣れてきていると思われるので、更なる活用の向上を望みたい。 ・読書活動もこのまま進めてほしい。</p>	<p>・「主体的・対話的で深く学び合う生徒の育成」の実現をめざし、各授業のめあてと振り返りの徹底や「わかる授業」づくりのための授業改善を行ってきた。さらに研修を重ね、生徒の授業理解を高めていく必要がある。また、グループ活動も徐々に再開し、コミュニケーション力を伸ばすための工夫も行っていく。 ・「学力を伸ばしたい人のための生活改善10ヶ条」の取組においては、家庭との連携を引き続き取り、生徒本人の主体性を伸ばす手立てを模索しながら個別に支援していく。 ・家庭学習のさらなる充実をめざし、学年・学校全体で具体的な方策を今後も検討しながら粘り強く指導していく。 ・タブレットを、学校はもちろん、家庭でのリモート学習においても効果的に使用できるよう、学校全体で研究や研修を重ねる。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①<城東中学校学力向上実行プラン>を策定し、各教科の到達目標について評価を実施する。</p> <p>②「学力向上のための生活改善10ヶ条」「各教科の学び方」などの配布を通して、学力と生活習慣の関係、効果的な学習方法および学習規律を指導する。</p> <p>③タブレット端末の有効な活用を考え、学力向上に結びつく学習方法を身につける。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①新学習指導要領の完全実施を受け、城東中学校学力向上実行プランを軸に、各教科で指導と評価のあり方や授業改善に向けての研究・協議を行い、生徒の学力・学習意欲向上に努めた。</p> <p>②年度始めには「学力を伸ばしたい人のための生活改善10ヶ条」「各教科の学び方」を生徒及び保護者に配付したり、夏休み等の個人面談時にそれらを活用して家庭との連携を図った。また、日々の授業において、細やかな振り返りや学習指導を継続的に行うことで、生徒の学習に対する取組や意識の向上・改善に努めた。</p> <p>③タブレット端末の活用への教師の関心度は高く、それぞれの教師がアプリの活用方法を研修している。それに伴い、生徒たちも学習に対する意欲が増し、タブレット学習に対する意識の向上にもつながった。</p>			
<p>道徳教育</p> <p>自己を見つめ、心豊かに生きる子どもを育てる。</p>	<p>生徒に充実感をもたらすような生き生きとした学習を進めるため、教科書を中心に適切な資料を選定し、効果的に活用する。</p>	<p>評価指標</p> <p>授業の内容について深く考えることが出来たと感じる生徒が85%以上である。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>授業の内容について深く考えることが出来たと感じる生徒が、86%程度で、目標の85%を達成することができた。</p>	<p>総合評定</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見)</p> <p>生徒たちは、授業で道徳的心情や道徳的価値について深く考えることができた実感できている。今後も、授業がさらに深い学びの場となるよう研修に努</p>	<p>・先生たちが研究や研修を重ねられているお陰で、その思いが生徒に伝わっていると思われる。 ・職場体験が中止となりとても残念に思う。実体験を得られる満足感や充実感を通して心豊かな人間形成ができますよう来年度の実施に期待したい。 ・「自己肯定感」を高める学習も望みたい。</p>	<p>・生徒に充実感をもたらすような「自己肯定感」を高める学習を進め、教科書を効果的に活用し、道徳的価値や心情について深く考えることができた。さらに、日常生活の中で、他者への思いやりや気遣いができ、相手の立場で物事を考えることができる生徒を育てられるよう、教師自身が研究と修養に努めていきたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①授業改善のための校内研修を充実させる。</p> <p>②教科書に沿った年間計画を作成し、生徒の発達段階に即したねらいを達成させる。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①各学年で道徳の研究授業を行った。先生方が道徳の授業を大切に、各学年・学級で、生徒たちの実態に合った教材を使って、生徒と共に道徳的価値や心情について深く考えることができた。</p> <p>②年間計画を作成し、生徒が様々な場面において道徳的価値を実現できるような授業を心がけた。</p>			

「評定」の基準 A：十分達成できた。 B：おおむね達成できた C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
<p>人権教育</p> <p>人権の大切さを学び、人権尊重の意識や態度を身につけ、日常生活の中で人権尊重を当たり前のこととして行動しようとする人権文化の創造を目指す人間を育てる。</p>	<p>①人権教育を教育の中核に位置付け学校の教育活動全般にわたってあらゆる場、あらゆる機会に民主的な人間関係の確立に努める実践を積極的に行う。</p> <p>②地域社会の実態、生徒の実情に立って人権教育を進める。</p> <p>③教師と生徒及び正と相互の人間関係の確立を望ましい集団活動や楽しい仲間づくりをする学校経営に努力する。</p> <p>④学校ぐるみの指導体制を確立し、子どもの可能性を伸ばす。わかる授業の創造をめざして、個人に応じたきめ細かな指導の徹底を図り、学級、全校、課外などあらゆる場面で民主的な集団づくりをめざす。</p>	<p>評価指標</p> <p>①人権作文・「やさしさ つながる ほっとHOTメッセージ」の提出する生徒が100%である。</p> <p>②校内研修会や学年研修会への参加が全職員である。</p> <p>③各学年毎に授業を行うことにより、人権に対する鋭い感性が磨ける。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①人権作文・「やさしさつながるHOTもっとメッセージ」の提出率は100%だった。</p> <p>②講師派遣による校内研修や学年研修会へは全職員が参加し、校内研究授業・研修会を実施することができた。</p> <p>③各学年共にしっかりと授業が行え、学校評価アンケートからも昨年と同等の回答を得た。</p>	<p>総合評定</p> <p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>本年度は、徳島市・佐那河内村ブロック人権教育研究大会もあり、各先生方の積極的な研修や生徒の積極的な人権問題学習に対する取り組みはすばらしいものがあつた。来年度以降もそのまま続けてほしい。</p>	<p>・人権学習で、自分の意見を積極的に発表し、発表者の意見を聞くことができていたのはとてもよかった。これからは、発展させてディスカッションできるようになればいい。</p> <p>・人権教育は生徒はもちろん、PTAを含めた大人も人権意識を持つことが大切だと思う。</p> <p>・SNSなどの中傷はスマホなどで人の姿が見えてないことで増加することがあり、常に人の姿や心を想像し思いやるのが大切だと思う。</p> <p>・生徒自身が作文や標語を考え、発表展示することはとても効果があると思われる。引き続き、文化祭等での表現の場の発表を楽しみにしている。</p> <p>・来年度は少しでも保護者が参観できるようにしてほしい。</p> <p>・オープンスクールや参観日と併せた講演会実施をできる範囲でしてほしい。</p>	<p>・人権作文や「やさしさつながるほっとHOTメッセージ」の内容がさらに深まるための授業を進める。</p> <p>・今年度、人権劇・人権ソングを実施することができ、高評価を受けた。来年度も実施したい。</p> <p>・人権新聞を発行し、今年度においてどのような人権教育を行ったかをまとめるとともに、来年度も生徒への人権意識の高揚と家庭への人権教育への啓発活動を行う。</p> <p>・今年度の徳島市・佐那河内村ブロック人権教育研究大会の成果を引き継ぎ、学校全体で生徒が人権教育に対して自ら学んで行動できるようにするとともに、各教師が人権教育の授業力の向上に努めたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①入学式後のPTA結団式の機会に人権教育への取り組み方について説明する。</p> <p>②前期・後期人権教育強化啓発月間(6月・11月)を設ける。</p> <p>③校内研修会や学年研修会などの機会を通じて、全教職員で研鑽に努める。</p> <p>④各種研究会に参加したとき、研修結果を報告する。</p> <p>⑤地域との連携を強化して生徒に対する共通理解を持ち、積極的な行事への参加を通じてよりいっそう信頼関係を深めるように努める。</p> <p>⑥各学年、研究授業を行い、研究を深める。</p> <p>⑦外部講師を招いての講演会を行い、研鑽に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①現在、全国的に問題になっているSNSによる誹謗中傷の問題を中心に話し、保護者へSNSの使い方の注意喚起の理解を促すことができた。</p> <p>②6月は各クラスで授業を行い、それを受けて人権作文をしっかりと書けることができた。後期は11月を中心に研究授業を行った。</p> <p>③それぞれの学年で研究授業を行い、その後研修会では熱心な討議ができた</p> <p>④リモートや参集による研究会に参加し、研修結果を報告した。</p> <p>⑤オープンスクールで各クラスがどのような人権学習を行っているか理解を求めようとしたが、新型コロナウイルス感染症予防ため保護者の参観ができなかった。</p> <p>⑥積極的に進めることができた。</p> <p>⑦回数は少なかったが、講演会を実施することができた。</p>			
<p>生徒指導</p> <p>生徒の規範意識を高め、基本的な生活習慣の確立をめざす。</p>	<p>①生徒の生活実態を把握する。</p> <p>②あいさつの習慣を定着させる。(特に登校時)</p>	<p>評価指標</p> <p>①調査の結果から、生徒の実態を把握し、様々な問題の解決を図る。</p> <p>②家族や地域の方々へもあいさつができる。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①アンケート結果は肯定的に考えられている生徒が多く、周囲に迷惑をかけないようにしようとする事や、あいさつ運動で仲間意識も高くしようとしている。</p> <p>②生徒間や教師のあいさつはできていると思われる。保護者からのアンケートからもできているとの意見が多い。</p>	<p>総合評定</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>情報交換を密に、様々な問題解決に協力できた。今後も続けていきたい。</p>	<p>・先生と生徒の距離が近くとてもいい雰囲気である。生徒にとって身近な手本となる大人として人間らしさを表裏なくみせて関わってほしい。小さな悩みや心配事など気軽に話せる存在になってほしい。</p> <p>・SNSでの迷惑行為の投稿が問題となっているが、SNSでの迷惑行為な相手のことを思い迷惑をかけないことを念頭において行動することが必要である。</p> <p>・参観日や放課後の訪問時、生徒から元気な挨拶をしてもらいとても気持ちよかった。</p> <p>・学校が楽しいと思わない20%の理由や心の声を拾ってほしい。</p>	<p>・生徒の生活実態をできるだけ把握し、生徒支援委員会や毎日の職間で教員間の共通理解を図っていく。</p> <p>・保護者や地域の方々へのあいさつの習慣を定着させる。城東中学生として誇りをもって生活していくことを教職員全員で取り組み努力していきたい。</p> <p>・SNSでの迷惑行為など、スマートフォンの利用の仕方について講師を招いて講習会を行う。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①学期に1回程度、生活アンケート調査を実施する。</p> <p>②教師や生徒会活動によるあいさつ運動を実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①学期末にアンケートを実施。問題点があれば迅速に対応し解決にあたることができた。</p> <p>②生徒会や人権委員・教師によるあいさつ運動が、毎朝行われ挨拶の習慣の定着を目指すことができた。</p>			

「評定」の基準 A：十分達成できた。 B：おおむね達成できた C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
特別支援教育 特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、よりきめ細かな対応に努める。	特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、全教職員が共通理解を図って対応する。	評価指標 ①本校の支援を必要とする生徒について、教職員が理解に努めているが100%になる。	評価指標の達成度 ①「特別な支援を必要とする生徒が必要とする支援内容について、理解を深めている」が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて80%であった。	総合評定 (評定) B (所見) 特別な支援が必要な生徒に対し、どのような支援内容が効果的であるかについて共通理解を図りながら取り組んできた。	・支援が必要なことは理解しているが、具体的にどのような支援が必要なのかを共有することが大切だと思う。 ・れいめい教室の存在を知り、すばらしい取り組みだと思う。今後は毎日の給食提供や午後からの開放を望みたいが、人員確保が大きな課題であることが浮き彫りとなった。専門的な知識を持った人員を配置していただけるよう、こういった所に経費を使ってほしい。 ・多感な年頃でもあり、また支援が必要な生徒に寄り添う先生の心情や各ご家族のプライバシーもあり、難しい問題だと思う。それでも支援を必要とする生徒は増えている。先生方のご苦労を痛感している。
		②特別な支援を必要とする生徒の80%以上に対応できる。	②「特別な支援を必要とする生徒に、必要な支援が80%以上できている」が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせて63%であった。		
安全教育 登下校時の安全意識の向上をめざす。	自転車通学生のヘルメットの着用を徹底する。	評価指標 自転車通学生のヘルメット着用率が、95%以上になる。	評価指標の達成度 アンケートの結果より、95%程度の生徒が着用できていた。	総合評定 (評定) B (所見) 全職員で指導にあたるように努めた。全校集会や学級指導でも、徹底を図った。	・グループで下校中、信号待ちの時、車道と歩道のギリギリの所に立っていて、ヒヤッとすることがある。 ・正門前の点滅信号で無理な横断や横断歩道のない所から斜めに渡っている姿を見て危ないと思った。また、自転車のスピードは凶器となるので、乗り方を過信しないよう引き続きのご指導をお願いしたい。
		活動計画 指導計画に基づき、学校周辺の交通指導を徹底する。	活動計画の実施状況 実施日の当番職員に声をかけ、指導重点場所3カ所での徹底を図った。 一斉下校時には多くの職員が下校指導に参加するように引き続き呼びかけていく。		
環境教育 ゴミの減量化・再資源化の意識の高揚と節電・節水に努める。	①ゴミの減量を徹底する。 ②環境美化を徹底する。 ③教室その他の場所における分別や節電・節水を徹底する。	評価指標 ①リサイクルボックスを活用し、教室から出るゴミを減らそうと努力している生徒80%以上を目指す。	評価指標の達成度 ①アンケート結果より、81%程度の生徒がゴミを減らそうと努力していた。	総合評定 (評定) B (所見) リサイクルボックスの設置方法の様子や、各校舎の掲示物を活用し、生徒たちのさらなる意識向上を目指す。	・リサイクルに対する意識を向上させるためにも、資源の再利用を呼びかける掲示物や担任からの声かけ、リサイクルボックス設置場所の確認を定期的に行い、生徒のリサイクルボックスの使用率や意識向上を目指す。 ・SDGsの取り組みの充実を図り、生徒会の自主的な参加に結びつける。 ・トイレ、教室、廊下等の節電や水道の節水を行うよう、呼びかける掲示物などの増設、啓発に努める。
		②新環境ISO運動の項目を実践する。 ③節電・節水に取り組んでいる生徒80%以上を目指す。	②例年通りの活動ができた。 ③アンケートの結果より、節電に関しては77%程度の生徒が「できた」と回答した。節水に関しては86%の生徒が「できた」と回答した。		
		活動計画 ①リサイクルボックスの活用を徹底する。 ②新環境ISO運動を行い、資源を大切に ③学級活動や委員会で取り組み、周囲への啓発をすすめる。	活動計画の実施状況 ①各教室にリサイクルボックスを設置し、余った用紙を入れる生徒の様子がみられた。 ②月1回のクリーンアップ大作戦には、生徒会を中心に、各部活動等、多くの生徒が参加し環境美化の意識高等につながった。 ③本年度の清掃活動では、生徒会と各委員会の代表が参加した。		

「評定」の基準 A：十分達成できた。 B：おおむね達成できた C：達成できなかった

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
キャリア教育 生徒のキャリア発達を支援する観点に立って、望ましい勤労観や職業観を身につけるために必要な知識や技能を育てることをめざす。	進路や職業に対する情報収集を通して、望ましい勤労観・職業観を育て、将来の進路への夢や希望を持たせる。	<p>評価指標</p> <p>1年；将来の進路への夢や希望を持ち、その実現に向けて努力する生徒が70%以上である。</p> <p>2・3年；将来の進路への夢や希望を持ち、その実現に向けて努力する生徒が80%以上である。</p> <p>活動計画</p> <p>①進路や職業等に関する様々な情報を本やインターネット等を利用して収集・探索するとともに、情報を選択・活用して、自己の進路や生き方を考える。</p> <p>②進路適性検査を実施し、自分の適性や自己の果たすべき役割についての認識を深め、DVDや講師の話聞くなどして、社会人・職業人の生き方を学び、職業体験学習での実践力を身につける。</p> <p>③キャリアパスポートを活用し、中学校3年間での計画的なキャリア教育を実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>夢や希望を持ったりその実現に向けて努力する生徒が、1年60%、2年68%、3年92%と学年が上がるにつれ将来に向けて努力する生徒が多くなっている。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①3年生においては高校調べや高校説明会等を通して、自己の進路や夢について深く考えた。</p> <p>②進路適性検査を通して自分を見つめ、職業についての学習を通して、社会の中で生きる上で自己の適性や果たすべき役割について考えた。</p> <p>③キャリアパスポートを記入していく課程で、自分自身について深く考える機会を持ち、具体的にどのような努力が必要なのかを考えた。</p>	<p>総合評定 (評定) B (所見) コロナの影響で体験学習の多くが中止となり意識を高めることに苦心したが、進路選択に向けて、各学年でキャリアの発達を支援する教育課程の実施に取り組んだ。</p>	<p>・生徒一人一人が現場に行く職場体験学習の実施が望まれる。</p> <p>・体験学習がコロナで中止になり、リアルな体験ができなくて人から話を聞ける機会が減って残念に思う。</p> <p>・コロナの中で仕事の厳しいTVなどで取り上げられることが多く、マイナスイメージがつくことが心配である。</p> <p>・1、2年生は、進路のことを漠然と考えていて、3年生は、高校選びを機に具体化している。職業体験が中止のなか、形を変え講演会や授業に取り組んでいて、現場の生の声や体験談は生徒の心に響くよい経験になったと思う。コロナ緩和で来年度の体験実施に大いに期待したい。</p> <p>・文化祭の展示でやりたい職業の過程調べの展示はともよかった。</p>	<p>・1年時より、進路や職業に対する情報収集を行い、将来の進路への夢や希望を持たせるための具体的な方策を考える。</p> <p>・コロナ禍前まで行っていた職業体験学習を復活させ、望ましい勤労観・職業観を育てたり、高校調べを行い、将来の進路への関心を高めたり、生徒が自主的・積極的に取り組む活動を更に充実させる。</p>
食育 食育の充実を図り、バランスのとれた食生活をめざす。	朝食をしっかりと食べて登校するよう生徒・保護者に呼びかける。	<p>評価指標</p> <p>朝食を毎日食べてきている生徒が80%以上である。</p> <p>活動計画</p> <p>①給食時間、学級活動・集会・家庭科の授業等において、「毎日のバランスのとれた朝食が大切であること」を指導する。</p> <p>②ホームページ・給食だより・パンフレット等を通して、保護者への啓発を推進する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>生徒アンケートでは、今年度、毎食朝食を食べていると答えた生徒は92%となり、目標の80%を大きく超えることができた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①学級活動において、教諭と栄養教諭のTT指導による食育の授業を行った。1年生は朝食の内容、2年生は間食の内容について指導した。また、家庭科の授業でも、1年生では食生活について学び、朝食の大切さについて生徒に考えさせる授業を行った。</p> <p>②食育タイムなどで、朝食摂取の重要性を保護者へ呼びかけた。</p>	<p>総合評定 (評定) A (所見) 朝食の重要性は十分認識されていると考えられる。</p>	<p>・朝食を食べるということは栄養の面でも大切なことであるが、心の安定の面でも重要であると思う。</p> <p>・ここ数年高い割合で維持できており、素晴らしい事であり、先生方のご指導のお陰と思われる。</p> <p>・HPの本日の給食が毎日更新されており、豆知識の掲載も濃い内容となっているので、もっと多くの人に周知してもらえるよう情報提供をしてほしい。</p>	<p>・今後も朝食摂取の重要性や望ましい朝食の内容について、継続的な指導が必要である。また、ホームページを利用し、保護者への啓発も積極的に行っていきたい。</p>

「評定」の基準 A：十分達成できた。 B：おおむね達成できた C：達成できなかった